

これまでの議論

1 背景

- ・ 少子高齢化が今後ますます進展し、2040年には65歳以上の老年人口が35%を超えるという予測がある
- ・ 生産年齢人口が減り、地域が活性化せず沈滞化していく

2 対象

- ・ 子育て世代、大学生や未就学児、小中学生、高校生など多様なターゲットを考える
- ・ 子育て世代に関しては、麻生区は比較的収入が高く共働きよりも専業主婦がターゲットになるか
- ・ まちの活性化を考える上では生産年齢世代が増えることが重要

3 方向性

- ・ 生産年齢の若い人たちが入り込んでくるような町にするための取組みを考える必要がある
- ・ 生産年齢世代が積極的に地域に関わって活動してもらえる環境づくり
- ・ どうやったら若い人が住めるようになるのか、住みやすいところとはどういうところかを考える
- ・ 市民レベル・市民目線で、少子化を食い止めるために必要な取組みを考える

- ・ 親や子が身近で遊べる場所や機会づくりを考える
- ・ 子どもが育てやすい環境とは
- ・ 多世代が互いに協力し合い、共生し合う町
- ・ 高齢者も若い人も巻き込んだコミュニティの形成による子どもの居場所づくり

部会テーマ

「若い世代が住みやすいまちづくり」

第4期「若者が住みたくなるまちづくり」のテーマを継承

具体的取組みに関する主な意見

取組み	これまでの主な意見
1. 麻生区の魅力のブランド化とPR	<ul style="list-style-type: none"> ・ 千葉県流山市では重点的な施策により若者を増やすことができた。要因は、 →PRをうまく行ったこと（行政にPR室を設置） →共働きをターゲットに、女性が働きやすい環境や、自然の豊かさなどブランドイメージを作り上げた。（保育所利用者に対する駅前送迎サービスなど子育てしやすい環境づくりを進めた。） ・ 麻生区の魅力は、「安全で便利で学生が住みやすいまち」、「芸術のまち」 ・ 外から麻生区に人が入ってきてもらうためには、「今既にもっている良さをさらに掘り起こす」、「区民にプラスのことを新たに提案して作りだす。」 ・ 現状では、駅までのバス便がないなど不便な地域がある。 ・ 地下鉄3号線延伸を契機に新百合ヶ丘のまちのあり方を考える。 ・ 小田急電鉄との連携が考えられないか。
2. 空き家の利活用	<ul style="list-style-type: none"> ・ 区内・近隣にある6大学の学生向けに、高齢化で出てきた空き家をシェアハウスとして活用が考えられないか。 ・ 一方で、空き家は駅から遠い場所が多く、条件の悪いところで需要はあるか。 ・ 地域貢献を条件に若者に安く貸すということが考えられないか。 ・ シェアハウスの需要があるか疑問なところもある。 ・ NPOの立ち上げや不動産業者との連携が考えられないか。 ・ 行政等で既に取組が進んでいる。この動きを精査し、既存の取組との整合・連携が必要ではないか。
3. 子ども達とその親などが集う「場」づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもとその親が集う場（遊び場等）が必要ではないか。 →上麻生隠れ谷公園や「わ・わ・わクラブ」「プレーパークを創る会」などの取組み例がある。 ・ 若者カフェのような若者が交流できる場ができないか。 <p>※『麻生区の魅力のブランド化とPR』における魅力づくりの取組みの一つとして取り扱う</p>

今後の取組み

取組み1 麻生区の魅力のブランド化とPR

生産年齢の子育て世代たちが入り込んでくるような町にするための、麻生区のブランド化とPRのあり方を提言する。そのために、以下を検討する。

- ①麻生区の魅力・ブランドとは何か？
⇒既存の魅力は？
⇒新たに提案すべき魅力は？
⇒魅力をブランドとしていくためには？
※魅力の一つとして「子ども達とその親などが集う「場」づくり」に注目する
- ②ブランドとして発信するためのPRの方法は

- (1) 流山市の取組み等、先進事例を調査し、そのノウハウを収集し、麻生区への活用方法を検討する
- (2) 麻生区の現在の魅力につながる資源を調査し、その掘り起こしと新たな魅力の提案を行う
- (3) 魅力の一つとして「場づくり」に注目し、区内の既存の取組み等を調査し、それをモデル的に広げるための方法を検討する
- (4) ブランドとして発信するためのPRの方法を検討する

取組み2 空き家の利活用

若い人たちが入り込んでくるような町にするための一つの手段として、空き家の利活用の方向性を提言する。そのために、6大学の存在と、高齢化に伴い増加が予想される空き家に着目し、若者への空家の提供の可能性を検討する。

- (1) 市、区における調査・検討状況を確認する
- (2) 不動産事業者等に対するヒアリングを行う
- (3) 若者と空き家を結びつける方法を検討する

提言の取りまとめ（1月～3月）

提言（報告書作成）